

議長定例記者会見 会見録

日時：令和3年6月1日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 発表事項

- 令和3年度三重県議会インターンシップ実習生を募集します
- 正副議長から知事執行部に新型コロナウイルス感染症対策に係る要望を行いました

3 質疑項目

- 令和3年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について
- 正副議長から知事執行部への新型コロナウイルス感染症対策に係る要望について
- 正副議長に就任しての感想等について
- 選挙区及び定数等について
- 県議会議員へのワクチン接種について
- 三ツ矢衆議院議員の引退について

1 冒頭の挨拶

（議長）おはようございます。初めての定例会見ということになりました。記者の皆さま方にはよろしく願います。また、手話の皆さま方にもお世話になります。今後ともよろしく願います。

初めに、議長に就任して最初の定例記者会見となりますので、一言、改めましてご挨拶を申し上げます。この議長定例記者会見は、県民の皆さまに議会活動について理解を深めていただくため、県政記者クラブおよび第二県政記者クラブの皆さまのご協力のもと、議会におけるさまざまな取り組みや県政における課題などについて、広く発信する大変重要な機会であると考えております。私といたしましては、円滑で効率的な議会運営に真摯に取り組むとともに、これまでの議会改革の成果などをしっかりと受け継いで、さまざまな場面において、県民の皆さまに分かりやすく参加しやすい開かれた議会を推進してまいりたいと考えております。これからも引き続き、議長定例記者会見を開催してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げます。ここで副議長からのご挨拶を申し上げます。

(副議長)おはようございます。私にとりましても、副議長に就任して最初の定例記者会見となりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。広聴広報会議の座長を務めさせていただく立場として、開かれた議会運営の推進のため、県政記者クラブおよび第二県政者クラブの皆さまのご協力のもと、新型コロナウイルス感染症の収束がなかなか見込めない中ではありますが、状況を見極めながら、さまざまな方法で取り組んでいきたいと考えておりますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

2 発表事項

○令和3年度三重県議会インターンシップ実習生を募集します

(議長) それでは早速、本日は「令和3年度三重県議会インターンシップ実習生の募集」について発表させていただきます。お手元に配付の「発表事項1」の資料をご覧ください。

まず、「1 目的」ですが、このインターンシップは実習生の知見を活用した客観的な視点から、議会のあり方等に対する提案、意見を受けることにより、三重県議会における監視機能の強化、政策立案および政策提言の充実等に資することと、さらには、学生のキャリア形成の支援および地方公共団体における議会の役割に関する理解の増進を通じて、地方自治の課題に的確に対応し、地方分権の推進に資する実践的能力を有する人材を育成することの2つを目的としております。

「2 実習期間」は、今年の9月中の2週間程度を予定しております。

次に、「3 受入対象者」ですが、大学院で、公共政策に関連する研究を行っている学生2名以内としております。

次に、「4 実習内容」は、当県議会の取り組みや業務内容の説明、本会議の傍聴などのほか、議員との対話・交流を行っていただき、それを通じて実習生から意見発表を行っていただくことを予定しております。

次に、一つ飛ばしまして、「6 募集等」でございますが、募集期間は、本日6月1日から今月末6月30日までといたします。実習生が決まりましたら、発表させていただきます。

このインターンシップ実習は、資料の裏面にも掲載していますが、これまでの12年間で計18人を実習生として受け入れており、地方自治の現場を体験する貴重な機会にも繋がっているのではないかと考えております。

○正副議長から知事執行部に新型コロナウイルス感染症対策に係る要望を行いました

(議長) 次に「発表事項2」の資料をご覧ください。正副議長から知事執行部に、新型コロナウイルス感染症対策にかかる要望を行いました。令和3年5月

27日、先週でございますけれども、開催の議会運営委員会において、5月31日にまん延防止等重点措置の期限を迎えるにあたり、その後の新型コロナウイルス感染症対策に関する方針決定等について、議員から、早期の説明を求める意見がありました。しかし、議会運営委員会終了後、実は5月28日になるんですけども、政府において緊急事態宣言の延長がなされることや知事がまん延防止等重点措置の延長を求めたことなどが報道されております。こうした状況の中、まん延防止等重点措置が県民や事業所に与える影響が非常に大きいことを鑑みまして、その影響を必要最小限にとどめるよう、3項目について知事、執行部に要望を行ったところでございます。

また今後、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の発出、延長の決定には、県民・事業者に与えるさまざまな影響を十分に踏まえる必要があることから、議会への早期の説明と議会の意見を十分聞き取っていただくよう、5月28日、先週末に要望したところでございます。私からは以上でございます。

3 質疑応答

○令和3年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について

（質問）そうしましたら発表事項について幹事社から質問です。まずインターンシップの件ですが、基本的なところですが、大学院生ですね、過去を見ると京都ですとか、県外の方もいらっしゃるようですけども、今回募集する際も県外の大学院の方も募集対象になるということでしょうか。

（議長）はい。当然そうなる。今までどおりでございます。

（質問）改めてですけど、どんな学生さんに来てほしい、そういったことをいただければと思います。

（議長）目的にも書いてあるとおりですね。この大きな2つの目的を達成できるような方に、ニーズが、どれくらい集まるか分かりませんが、その中でその方々を選定していきたいと思っております。

○正副議長から知事執行部への新型コロナウイルス感染症対策に係る要望について

（質問）正副議長2人に伺いますが、発表事項2ですけども。こういったご要望されるっていうことはお二方のところにも有権者の方々から結構こういう政策を取り入れてほしいですとか、そういった意見が結構来るといことなんでしょうか。

(議長) はい。私の方から、副議長と地域が違いますので、その辺のそれぞれ声が違うか分かりませんが、大なり小なり、今回の3項目につきましては、私も日々から、声が上がっていて、そしてそれを反映させていただいたと思っております。

(質問) 副議長いかがでしょうか。

(副議長) 私は四日市ですので、まん延防止等重点措置の対象区域になっているということもありまして、特にやっぱり飲食店の皆さんとかからは本当に非常に厳しいという声をたくさんいただいています。加えて、保護者の方からも、子供たちへの制約がやっぱりきついと、学校行事が延長になったりとか、あるいは部活動の制約とか、そういうことも非常にきついついていうことのお話をいただいています。

(質問) 分かりました。ありがとうございます。発表項目について質問あればお願いします。

(質問) まず、ちょっとこういった当局への要望は、一般的に事前に例えば教えていただいて、周知し、広報していただいて、その上での要望というのが通例なのかなと思うんですが、今回その事後発表になった理由、その思いはいかがでしょうか。

(議長) 直前で言うと2月4日にも前議長、副議長の方から、新型コロナウイルス感染症対策に関する申し入れも行ってみえます。この時期につきましては、少し時間的な余裕もあつたり、意見収集の時間があつたのかなと思うんですけども、今回なかなか5月31日以降、予想とか憶測はあつたものの、このままで終わるのか、それとも延長されるのかが非常に微妙なところで、県当局と政府との話し合いの情報提供をしながら、分からない状態だったのかなと思ってございます。その中で、28日の日に、これ、本部員会議の直後ですから夕方、大分遅くなっていたんですけども、その中でのレクになりましたので、その時の、前日の議会運営委員会の委員さんのご意見もありましたし、我々が退席してからの委員協議の話も後で聞かせてもらったこともありまして、しかしながら、なかなか全協前倒ししてするに至らなかったとか日程的なこともあつたりとか、もう発表後なんで、どうしようかなっていう、副議長とも、相談をさせていただきながら、しかしやっぱり声として上げとかんと、今後のこともあるんでねということで、3点絞って要望させていただいたところでございます。

(質問) そういった急きょ延長が決まったことを受けての早急な対応だったということだと捉えましたが、それであれば、提出後に、例えば、迅速に発表いただくとか、その当日にとかできるだけ早く発表いただくという形ではなくて、この定例記者会見の場でこれの発表になったということはいかがでしょうか。

(議長) 大変申し訳ないなという気持ちもあるんですけども、その金曜日の夜だったのでその後、要望内容につきましては、代表者会議のメンバー、議連のメンバー、その他会派の代表者の方には、緊急にファックスをさせていただいて、その時特にお声は返ってこなかったんですけども。その辺りでそれぞれの会派からはメンバーに連絡いただいている、こんなんが出たっていうことは、連絡いただいているのかなと思っています。昨日、特別委員会等、熱心にやってもらってございましたけども、本日ちょうど定例記者会見でございますので、改めてきちっと、報告させていただくのも、明日まで待つ理由もありませんので、きちっとさせていただいたというところでございます。

(質問) 申し訳ありません。要望の内容でちょっと1点質問なんです。その飲食事業者に対する影響を最小限に抑えるための支援と書いてあるんですが、その影響というのは、いわゆる感染拡大の影響を最小限に抑えるという意味なのか、それかそういった飲食店に対する措置を最小限にとという意味なのかこの影響最小限という具体的に何を踏まえて、要望しているのかという。

(議長) 特に、先ほど副議長も言われましたけども、北勢地域においては酒類が出せないっていうようなことで、それがさらに続くというふうなこともありましたので、そちらの、営業等の影響が大きいということが少し、強めかなという感じはしております。

(質問) 同様に学校行事の延期自粛などによって、児童生徒への影響が生じないと。これについても、延期や自粛について最小限にと、影響が生じないようにしてくれという意味と捉えていいんですかね。

(議長) はい。

(質問) そうすると、延期や自粛をしないでくれというふうに捉えかねられません。

(議長) 営業等、医療等の関係から営業等になるわけですけども、その後学校行事、ちょうど今、例えば実態としては、春の運動会等、いろんな行事がもう

計画されていて、子供たちが楽しみにしてるとかいうことでございますので、イコール全部中止してしまうというようなことに短絡的になってもいけませんのでそれは十分配慮しながら、各部局で、おろしていただきながら、というそういう影響を考えております。

(質問) 分かりました。

(議長) 3番の件も、併せてございますけども、一応、20日ってことで区切られましたけども、他県と比べますと、心配はするものの、数値等、隣県とは違う状況になっておりますので、可能な限り、そういった状況が落ち着けば、そういう早く解除できるようなことも頭の中に入れてほしいというようなことでございます。

(質問) 今回のケースに関しては、この27日の日の、例えば夕方に、有識者の県の検討会議があったと思うんですけど、これ、あらかじめっていうのは、そういう会議の場にも、議員さんの意見を反映させてほしいっていうようなことなんですか。十分に聞き取っていただくようっていうのは、どのタイミングで、そういう場を設けてほしいっていうイメージで要望されたのか。

(議長) 27日の議会運営委員会で、そういったご意見が、本委員会でもまた委員協議でも出たっていうようなことも、心の中に置きながら、正式には28日夕方だったわけで、本来ならその夜にでもこう、いろんな形で、全協でも開ければよかったんですけども、なかなかそういった状況にならなかったし、2日の日、早いか遅いかは別にしまして、きちっとした意見をいただく場も近々あるということで。ただ、さりはさりとして、議会運営委員会、また委員協議で出た意見は重く受け止めながら、できる限りのスピーディーな対応をしてほしいし、次の形に、いよいよもう今日から、いろんな施策も出てきますので、そういったところも配慮してほしいという思いを込めて、先週行ったということでございます。

○正副議長に就任しての感想等について

(質問) お二人にお伺いしますが、正副議長就任されて2週間で、先ほど初の定例会見ということで、開かれた県議会というふうなご発言もありましたけれども、改めて2週間経って、ご心境ですとか今後の目標等あればお願いいたします。

(議長) ちょうど就任させていただいて2週間経ちます。なんかもう、一瞬で

今日に至ったような感じはしています。対外的な行事、議長として出席しなければ、本来ならば、コロナがなかったら、総会とかいろんな行事にお邪魔することが多いわけですが、日に日に書面議決とか、自粛とか延期とかもそんな形で、あまり外へ出ることがほとんどないこの2週間でした。

逆に、こういったコロナ関連の補正予算が、当然27日の本会議ありましたし、その後も、2日を、また次に次にと予想されてます。苦しんでみえる事業者の方をはじめ県民の方が、思ってみえることをより反映するために、しっかりと、逆に言うところこの議長室にいて、そのレクを細かく受けたり、またそれに対する対応を副議長と相談したり、そういったところで時間を使わせていただきましたので、それはそれで中身のある2週間だったなと思っております。私も個人的なことで申し訳ないですけど、お電話いただくこともちょいちょい、就任頑張ってねっていうこともあるんですけども、白山町、私、在住ですけども、白山町とか旧一志郡で議長なかなか出てなかったけど、いつから出てないのって聞かれて、ちょっと調べましたら、昭和32年の6月の、白山の場合やったら、服部一郎さん、第49代の議長から、僕も実はその日、その年生まれた年なんですけど、64年ぶりに、議長にさせていただいたのかなということと、それから、次の年の第50代の一志町の田中政郎さんという方は、旧一志郡では、後に町長された方ですけどもその方以来なんでこれも63年ぶりなんで、そういう意味では、その後たくさんの優秀な議員さん出てみえましたけども、そういった中で、そういった方々の思いも背負いながら、しっかり一年間、この喫緊の課題について取り組んでいきたいなと、思いを新たにしたところでございます。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 私も2週間ということで、まだ慣れたってところまでいかないようなところあるんですけども、この2週間経ちまして、今、議長が言われましたように、緊急会議もありましたし、そしてまたこの6月議会も明日からですけども、補正予算もまたたくさん今準備されてるってこともありますので、そういった中身についてしっかり腰を据えて議論していけるような、そういう状況をしっかり作っていきたくなことを改めて思っているところです。

新型コロナについては先ほどの要望の件もありましたけれども、やっぱりこのまん延防止等重点措置が、少なくとも12市町については延長になったということで、非常に苦しい声をたくさん私どもやっぱり地元からも聞いておりますので、1日も早く、このコロナの収束とともに、経済とか生活とかそういうものが日常に戻っていけるように、この一年間しっかり取り組んでいきたいなと思っております。

○選挙区及び定数等について

(質問) 前任の正副議長のもとで、定数と選挙区の条例案が可決されましたわけですが、改めての確認になりますけれど、議長と副議長の任期中に、この条例について改めて検討する可能性があるかと捉えていらっしゃるのか、それとも、その考えはないのか、次期県議選まで2年ありますけれども、今どのように捉えていらっしゃいますでしょうか。

(議長) 私見になるかわかりませんが、今回の議決については、これまでの年月と議論も踏まえますと、この度の議決はしっかりと重く受けとめたいと思っております。もう2年がどんどん短くなっていく中で、正直言いますと、だんだんだんだん、新しい選挙区になられた方とか、変わった場合は、そういった取り組みをしていかなあかんわけでありますので、時間は厳しいと思います。ただ6月ですかね、今月の国調の速報も出ますし、それから、11月には確定が出るというような時期もございますので、それが出た段階で、やはりしっかりした、代表者会議で確認はしていく必要はあるんだろうなと思っております。しかしながらだんだん期間が短く、私も自分の選挙区の経験から言いますと、皆さんご承知のように、これは定数を減らした増やしたじゃないんですけども、市町村合併のときに、一期目は旧一志郡の選出だったんですけども、あん時に、半分津、半分松阪に入って、それで津が、4万の知ってる人と25万の新しい人が選挙区になった経験が私あります。そのときに、実は1年3カ月しかなくて、すごいうち焦ったというか、困った経験がございますので、期間はですね、現職でありますし、それぞれ現職の方々が新しい選挙区で臨むためには、ある程度一定の期間とか、活動する時間を保障していく必要があるのかなと、こういうふうには思っているところでございます。

(副議長) 今、議長が話されたとおりで私も思っております、この議決を重く受け止めて、そしてそれぞれの議員がこの改正された選挙区定数について、しっかり県民に説明をしていくというのがこれから大切かなと思っております。もちろん、国勢調査の結果を踏まえてということは代表者会議でも確認されておりますので、その作業は当然必要だというふうに思っています。以上です。

— 第二県政記者クラブの方も含めてお願いします —

○正副議長から知事執行部への新型コロナウイルス感染症対策に係る要望について

(質問) 感染症対策に係る要望ですけど、第一の記者クラブさんからも言われ

たんで第二からも言うておきますけど、少なくともニュースなんで、我々は干物が欲しいんじゃないんで刺身が欲しいんですね。それからいけば、広報戦略上おかしな話で、少なくとも28日に出された段階で、ペーパーを流すなり何なりされたら、我々は24時間体制で待ってるわけだから、できるだけ早く読者に知らせるという義務もあるし、そこからいったら、その段階で流していただいたら29日の朝刊とか、あるいは遅れても30日とか載るわけで、できるだけ読者に速やかに知り得た情報をなるべく早く伝えるっていうのが我々の役目なんで、それからいっても、議会とその記者クラブの関係で、そのこのところをあえて協力してやってきたわけで、この遅らせて今日発表するという意味が全然私は分からないです。仮に今後こういうことがあるならば、少なくともこの内容が漏らしたらいけないって話なら別にここで今日出す必要ないし、ここであえて出されてるということは、公表しても構わないペーパーなんですよ。だとすれば28日に出されるのが本来じゃないですか。広報戦略を担う副議長だから、逆に言ったら、これは出したほうがいいよというふうなご助言を議長にされてもしかるべきだと思います。お答えは要らないです、長くなるんで。

(議長) ありがとうございます。重く受け止めながら今後に生かしていきたいと思っております。

○県議会議員へのワクチン接種について

(質問) その他事項なんですけど、昨日、知事が、ワクチンの余った分の首長さん接種とか、年齢とかそういうのはあまり限らず、あとは保育士の方を入れるとかそういうことを発表されてるんですけど。要はワクチン接種のガイドラインですね。それを発表されてますけど、これ議会からの要望として、我々議員もその中に加えて打つべきじゃないかというふうなことはされないんですか。っていうのは、一般職員とか保育士の方よりもはるかに議員の方が後援会含めていろんな方と接触されてるし、いろんな会合にも行かれてるし、今は食事会自粛されてても、そういう機会も多いわけですから、一番その感染のリスクが高いのは、別に県議会議員に限らず議員だと思うんですね。それからいったら議会のほうから、ここは、ガイドラインの中に議員も加えるべきだと、これは都道府県今やってないから、逆に言ったら全国初になるかもしれないけど、そういう要望される意向はないですか。

(議長) ありがとうございます。当初、そういった公の方、首長さんが予約された時にいろんな批判もあった時期もあったと思いますけども、私実は就任した時に、今、記者が言われた同じことを支援者の方からも言われました。議長はいろんな方に、時には県外の方と会わなければならないこともあるか分から

ないので、感染させないように、リスクが高いから、そういうことは考えるべきではないかなというようにもいただきました。で、私、実は年齢的に優先年齢なんでございますから、65ぎりぎり今年度なっちゃいますので、そういったことで、個人的には7月ですけども予約をさせていただいたところがございます。これはもう個人的な話です。ただ、今ご意見を考えると、年齢関係なく、議会という、議員というこういった立場の者が、やっぱりそういったリスクを負ってるということについては、今日即答はできませんが、その辺はまた副議長といろんな形で相談させてもらいたいなということを思います。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 今、記者さん言われたとおり、もちろんそういうご意見もあると思います。一方ですね、じゃあ議員は何で先に打つんだっていう声もあるのも多分事実だと思っておりまして、その辺りのことを、今、議長言われましたように、すぐにどうこうって答えを出せることではないと思いますので、さまざまな声がある中で議会はどうするのかっていうのは、また議長と相談させたいと思います。

(質問) スピード感持っている稲垣さんにしてはあまりにも慎重すぎる感じがするけど、本来、仮にそういう批判があって議員特権じゃないかっていうお話もあるけど、そこをちゃんと論理付ければ、あなたお得意の論理でやればそれは説得できると思うんで、そういうことで、できるだけ早急に、どっちにしたって7月末までに全員分打つという一応政府方針があるわけですから、早めになんかそういうふうに議会内で立ち上げられて、このガイドラインを一部修正すればいいだけの話なんで。余計なことかもしれないけど全国初でもあるんだったら、それはそれで一つの、特に稲垣副議長がよく目指される全国トップモデルになるかもしれないから、そこは考えられたほうがいいんじゃないかと思いますけど、どうですか。

(副議長) 我々ワクチンを打つかどうかっていうことが全国初になることか分からないですけど、それだけ先ほど記者さんが言われることと言えばニュース性があるのか、それが刺身なのかちょっとよく分かりませんが、ただ、先ほどからありますように、いろんな、多分それについては県民の声があると思います。ので、そこはやっぱりしっかりと議会として考える必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

(質問) いずれ代表者会議か何かで諮るんですか。

(議長) まず副議長と相談させていただきながら、今までの全体のデータもちょっと聞きながら、諮るかどうかについても今後検討していきたいと思います。

○三ツ矢衆議院議員の引退について

(質問) あと、なんせ18日は就任会見だったんで聞けなかったんですけど、衆議院4区の三ツ矢代議士の引退について、同じ自民党でなおかつ前回三ツ矢さんが県連会長で、幹事長をお務めになっていた青木議長ですから、その会長と幹事長のコンビだというのがありますけども、それについてのご感想を。

(議長) ありがとうございます。ご承知のとおりでございます。三ツ矢会長が平成29年から4年間連続で会長をされた、二期された、その間に私も前半が政調会長でしたし、後半の2年間は幹事長でしたんで、最後としてお使いしていたことは事実でございます。その中で、キャリア時代の経験を生かしながら、本当にしっかりと、東紀州をはじめ4区内の事業につきましては、本当に力を発揮していただいたと思っています。いろんな形で感謝をしております。ただ、途中、昨年あたりから、少し体調が思わしくないというのは感じておりました。腰が痛いとか、役員会を少し延ばしてくれんかというのがあったので、大丈夫ですかと言ったら、すぐ治るから大丈夫だよってというような感じできていましたので、今回の発表されたことにつきましては、残念と言いましょか、まだまだやる気があられたのに、体調の関係でそういったことになったということは残念に思っているところでございます。まだ本人さんとは、その後、話はしてございませませんが、私にとりましてはいろいろご指導いただいた会長でしたので、残念に思っております。

(質問) 議長が健康上の理由で三ツ矢さんっておっしゃったから、聞かざるを得ないですけど、参院補選の応援まで出ていて、健康上の理由を今更というのもおかしいでしょ。10年前から三ツ矢さん元々体悪いと言われていて、中には透析受けているっていう話もありますやん。それからいったら、健康上の理由で引退されたということについては、私なんかはちょっと変だなと思うんですけど、その辺、青木議長はどういうふうを受け止められたんですか。

(議長) 正直に言ってますけれども、昨年の、先ほど具体的に役員会延ばしてほしいと言われたのは、1年前の7月の役員会を8月1日まで2週間延ばした時に初めて腰痛のことを聞かせていただいて、そのときはオフレコにしといてくれよっていうことだったので、違う理由で延ばしたことになるんですけども、そのときから心配はしていました。それまでは、健康状態は全然そ

んな調子が悪いというのは一切聞いたことがなかったので、噂でいろんな話をされている方がみえたみたいですけど、私の捉え方としては、今年の夏ぐらいからかなと思っています。

（質問）この前、参院補選で広島入りされたのは、無理をしてされたっていう受け止めですか。

（議長）はい。おそらく会派長の顔も立てながら、体調がその日は割合良かったのかなと、今は思っております。

（質問）副議長にお伺いしますが、立憲民主党さんの4区の候補者擁立で、三重テレビの元記者兼キャスターの坊農さんが出られるときに、新政みえ代表のお立場で立候補の表明のところに座られて、親友だからとおっしゃって、力添えするというおっしゃいましたけど、今回その相手さんが現職で今回引退されたんですけど、これについてどういうふうに受け止められていますか。

（副議長）三ツ矢代議員につきましては正直、私は直接お会いしてお話をしたことがございませんので、そういう意味では繋がりが無いということなんですけれども、長年地域のためにご尽力をいただいたということで、今までやられてきたことに対しては、本当に敬意を表させていただきたいなと思っています。その上で選挙ということですが、相手候補は当然分かりませんので、現職であろうが新人であろうが、当時、私は新政みえ代表として、坊農さんをみんなで応援していこうということで決めさせていただきましたので、しっかり坊農さんの必勝に向けて、我々の新政みえとしては、私は今代表ではありませんけれども、取り組んでいただけたと思っていますし、私も個人的にはあの時の記者会見で申し上げましたとおり、親友ですので頑張っていたきたいと思います。

（質問）公的に副議長の肩書き使われて、選挙運動を応援するとかそういうのはあるんですか。

（副議長）おそらく今までの議長、副議長がどのように衆議院選挙に対応されていたかとか、その辺りをもう一度改めて選挙ということになれば確認をさせていただかなければいけないなと思っていますが、今までのやり方というか、立場でのやり方を踏襲させていただく形になるのかなと思っています。

（質問）慣例に倣って、もし正副が特定候補の応援演説されてたら、慣例に従

って、慣例がもしあれば、それはそれで可というふうにお考えなんですか。

(副議長) 慣例がというか、今までどのように対応されていたかというのを確認する必要があるなと思っています。その上で、自分の判断をとということになるのかなと思っています。

(質問) だから、慣例的に過去に例があれば、それで自分も行こうとか、いや、やっぱり行かないよねっていうことと言えば、果たして副議長という議会のある程度まとめ役の補佐役だから、ある程度の公共性、公務性が担保されてなきゃいけないじゃないですか。だから、議会によっては、正副議長に就任されたら会派の席を抜いているという議会もあるわけですよ。県議会はずっと抜いてないですけど、そういうのからいくと、副議長で仮に過去にそういう例があって、だったら稲垣さんは副議長として応援してもいいんじゃないかとお考えなのか、それとも、それは副議長としてそれはおかしいよというふうにお考えなのかどちらですか。

(副議長) 今までの状況を確認させていただかないと何とも言えないとは思いますが、慣例がどうかというのはちょっと分からないので、ただ私としてはそれを見た上でしっかり判断をするということですので、当然今、記者言われたように、公共性とか中立の立場とか、そういうのをおそらくこれまでの歴代議長、副議長は重んじてこられたんだろうと思っていますので、私自身としてはそのように考えています。

(質問) 過去のあれを見ないと分からないって、ご自身の考えを私は聞いているんですけど、そこで答えていただけないというのは非常に残念ですね。過去がどうであれ、これが本当の副議長とか議長の在り方じゃないかというのが、少なくとも5期もやっていれば、そういうお考えがある程度確立されていると思うんですけど、そこをちょっと示していただけないのは残念ですけど。

(副議長) 先ほど申し上げたんですけれども、過去もおそらく公共性とか中立性というのをしっかり考えながら、歴代の議長、副議長も行動されていたと思っていますので、私自身はそのように思っていますので、公共性、あるいは中立性というのは大事だと思っています。

(質問) 青木議長は仮に衆院選になったときに、どういうお立場を貫かれますか。

(議長) 私の個人的な考えで申し訳ございませんけれども、私は会派にも所属し、それから黨員でもございます。党籍を抜いて議長になったわけではありませんが、ほぼ中立の立場で今、副議長とともに県政に集中して取り組んでいるという立場でございますので、私の衆院選云々という話になったとしても、それはコロナウイルス対策等まだまだ続いている時期であろうと思いますし、そういったところにはひよっとしたらなかなか参加はしないということになると思います。

(質問) 参加しない。過去の例で言ったら、国政選挙ではないけど、県内首長選に議長がマイクを握って、総決起大会で応援されたことはあります。多分議会事務局には記録残ってないけど、平成19年の菰野町長選で、当時の藤田正美県会議長は総決起大会来られて、当時の候補者だった石原さんを応援されました。だから、過去例でいくと、首長選とは言いながら、他の方の特定候補の選挙に応援来られたということの例はあるわけですよ。その辺どうご判断されるかですけどね。

(議長) 現在の個人的な考え方は、そういった県政に集中して取り組むべきだと思っていますので、どんなオファーがあるかそれは別として、自分としてはそういったことがあっても集中してやりたいということを意見として申し述べたいと思います。

(質問) 自民党さんの新4区の候補者というのは、その擁立等に青木さんはある程度関わる部分あるんですか。

(議長) これはありません。4月24日をもって幹事長を降りておりますし、新幹事長もおりますし、ご承知の通り、5月22日に新体制での初めての役員会がありましたので、そのときには新体制のほうで会長に一任するという形で進んでいますので、私は一黨員、総務という役員の一員である、それだけでございます。

(質問) 例えば自民党さんとして擁立するときに、現職県議を仮に立てるとかいう話になった時は、当然会派は関係あるので、そこでは間接的にある程度、議長も会派員であるから関わる部分はあるんですよ。

(議長) 会派の場合は団長を中心に、どこまで情報いただけるか分かりませんので、その一員としてその状況を聞かせていただく立場であると思います。聞きおくと終わりかわかりませんが。

(質問) ダメもとで聞きますけど、自民党県議で4区立てるなら誰がいいと思いますか。

(議長) なかなか難しい質問ですね。いろんな優秀な方々がお見えになりますので、誰がいい彼がいいっていうのはなかなか言いにくいことで、コメントは差し控えさせていただきます。

(質問) どうも。

(質問) よろしいですか。ありがとうございました。

(議長) どうもお疲れ様でした。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(以 上) 11時10分 終了